

**埼玉県県民コメント制度に基づく結果の公表**  
**(魅力ある県立高校づくり第1期実施方策) について**

埼玉県教育委員会では、「魅力ある県立高校づくり第1期実施方策」を策定しました。策定に当たっては、「埼玉県県民コメント制度」に基づき、「実施方策(案)」について、県民の皆様から御意見を募集したところ、109件の御意見をお寄せいただきました。

寄せられた御意見及びそれに対する県の考え方を公表いたします。

1 意見募集期間

令和元年6月24日(月)～令和元年7月23日(火)

2 意見の提出者数及び意見件数

109件(52名・2団体)

(内訳)

区 分	人 数	意見件数
郵送	5	13
F A X	19	33
電子メール	30	63
合 計	54	109

3 意見の反映状況

区 分	意見件数
意見を反映し、案を修正したもの	2
すでに案で対応済みのもの	14
案の修正はしないが、実施段階で参考とするもの	62
意見を反映できなかったもの	31
合 計	109

4 策定した施策及び意見募集結果の資料の入手方法

埼玉県のホームページから入手できます。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2219/jisshihousaku.html>

また、次の窓口で閲覧・配布を行っています。

- ・埼玉県教育局県立学校部魅力ある高校づくり課(県庁第二庁舎4階)
- ・埼玉県県政情報センター(衛生会館1階) Tel 048-830-2543
- ・埼玉県の各地域振興センター・事務所
 

南 部	Tel 048-256-1110	南 西 部	Tel 048-451-1110
東 部	Tel 048-737-1110	県 央	Tel 048-777-1110
川 越 比 企	Tel 049-244-1110	西 部	Tel 04-2993-1110
利 根	Tel 048-555-1110	北 部	Tel 048-524-1110
秩 父	Tel 0494-24-1110	東 松 山 事 務 所	Tel 0493-24-1110
本 庄 事 務 所	Tel 0495-24-1110		

5 問い合わせ先

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

埼玉県教育局県立学校部魅力ある高校づくり課

TEL 048-830-6902

FAX 048-830-4951

E-mail a6780@pref.saitama.lg.jp

# 魅力ある県立高校づくり第1期実施方策(案)に対する御意見と県の考え方

※ 御意見の趣旨を損なわないように要約し、同様の御意見については、まとめさせていただきました。

- (反映状況の区分)
- A: 意見を計画に反映し案を修正したもの
  - B: 意見の趣旨が案に含まれているもの
  - C: 案は修正しないが計画実施段階で参考としていくもの
  - D: 意見を反映できなかったもの

意見・提案内容		同様 意見数	県の考え方	記号
<b>1 計画全体について(91件)</b>				
1	学校は地域の活性化のために必要なものである。学校が減り、地域の活力が失われてしまう統廃合はやめるべきである。	7	県立高校の再編整備は、県内中学校卒業生数の減少や社会のニーズなどを踏まえ、県立高校の活性化・特色化を図るために推進すべき重要施策と考えています。新校が地域とともに活性化・特色化を図り、共に発展できるように、市や地域の方々及び学校関係者などと引き続き検討を進めてまいります。	D
2	統廃合ではなく、少人数学級の実現や、教員を増やすなど、教育条件を整備し、子どもと保護者の期待に応えられるような案を策定するべきである。	14	現在、教育内容の充実を図るため、各学校の状況に応じて学習サポーターや、就職支援アドバイザー、スクールカウンセラーの配置、県立学校運動部活動サポート事業や少人数学級編制を導入するなど、生徒の状況等に応じてきめ細かく対応しております。 引き続き、教員の適正配置に努め、新校はもちろん既存の高校も含めて、魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。	C
3	農村部の高校や、進学校ではない高校の生徒募集には本来、県教委としての政策的配慮が必要なのではないかと。 県教委内や、県庁の関係部局との具体的連携を図り、支援策等を検討すべきである。	1		C
4	今回の対象校の選考理由が分からない。	4	対象校については、平成30年4月に公表した「魅力ある県立高校づくり実施方策策定に向けて（再編整備の進め方）」にある「再編整備を検討する観点」などに基づいて検討しました。	D

意見・提案内容		同様 意見数	県の考え方	記号
5	学校を無くすことにより、遠距離通学、交通費負担が増えることなどを理由に進学を断念する中学生や、行き場がなくなる中学生が出てくる。	13	再編整備を検討する際には、地域バランス等を考慮して検討しております。 また、地域の中学校卒業生数の今後の推移、高校進学率、進路希望状況、進路実績を踏まえ、募集学級数を調整してまいります。	C
6	学校が減れば、「行き場所」を失い、特別支援学校高等部への入学者が増えることはこれまでの統廃合からも明らかである。特別支援学校の「教室不足」がより一層深刻になると考える。 障害のある生徒など高校で学ぶことを希望する生徒たちを受け入れていく再編整備に改めてほしい。	5	県立高校の募集学級数については、地域の中学校卒業生数の今後の推移、高校進学率、進路希望状況、進路実績等を踏まえ、調整しております。 特別支援学校の高等部段階の生徒数の増加への対応については、児童生徒数の推移や各学校の教室不足の状況を踏まえ、対策を講じております。令和3年4月に戸田翔陽高校の敷地内に県南部地域特別支援学校（仮称）と松伏高校の敷地内に県東部地域高校内分校（仮称）が開校する予定です。 今後も、特別な支援が必要な児童・生徒が安心して学ぶことができる教育環境の整備を計画的に進めてまいります。	C
7	高校への「通級」が制度化され、4校で試行しているが、小規模の高校に障害児学校の分校を整備し、高校との相互支援の中で「通級」をはじめとした「インクルーシブ教育」を充実させていくことこそ、「魅力ある県立学校づくり」につながるものと考えている。	1	「21世紀いきいきハイスクール構想」に基づく再編整備計画では、中学校卒業生数が減少する中、単位制高校、総合学科高校、福祉系専門高校、昼夜開講の多部制定時制高校などを設置し、多様化する教育ニーズや高校中途退学などの課題に対応してまいりました。 構想終了後は、生徒数の減少が限定的であることから、学科の再編や教育課程の改編に取り組んでまいりました。 しかし、再び中学校卒業生数の減少や社会状況の変化などが見込まれたため、生徒にとってより良い学習環境を整備する観点から再編整備を進めるものです。	C
8	「21世紀いきいきハイスクール構想」をきちんと総括して「方針」やこの「第1期実施方策（案）」が出されたとは到底思えない。	1	「21世紀いきいきハイスクール構想」に基づく再編整備計画では、中学校卒業生数が減少する中、単位制高校、総合学科高校、福祉系専門高校、昼夜開講の多部制定時制高校などを設置し、多様化する教育ニーズや高校中途退学などの課題に対応してまいりました。 構想終了後は、生徒数の減少が限定的であることから、学科の再編や教育課程の改編に取り組んでまいりました。 しかし、再び中学校卒業生数の減少や社会状況の変化などが見込まれたため、生徒にとってより良い学習環境を整備する観点から再編整備を進めるものです。	D
9	新校のための準備で、現場の教職員にとっては多忙化に拍車がかかる。	1	今後、「新校基本計画検討委員会」や「新校準備委員会」等を立ち上げ、地元関係者や学校関係者の意見も伺いながら、新校開校へ向けた準備を進めてまいります。	C
10	現場の職員の要望を丁寧に聞いてほしい。	2		C
11	今後の具体的なスケジュールを示してほしい。	1		C

意見・提案内容		同様 意見数	県の考え方	記号
12	南部地域の高校と北部地域の高校で同じ基準で考えることはできない。地域の特殊性などは考慮しないのか。	2	地域の教育力の確保も大切な視点であり、地域バランスを考慮する必要がありますと考えています。 そこで、今回は、地域ごとの再編整備の規模を示し、全県でバランスよく進めていくこととしています。	C
13	都市部の生徒数の多い学校を廃止することで、少人数の学校を数校廃止するのと等しい全体の生徒数の調整が可能ではないか。	1		C
14	5年前までに廃校になった高校リストを見ると、「『都市部』の高校は廃校になっていない」。そして、いわゆる『進学校』ではない。	1		C
15	統合後の新校の校名について、公募も含めて統合にふさわしい校名が検討されるのか。	1	校名の検討に当たっては、アイデアを広く県民から募集するとともに、「新校準備委員会」から意見を聴取するなど、丁寧に検討を進めてまいります。	C
16	それぞれの高校にはそれぞれの良さがあり、子供たちもそれに合わせて高校を選んで進学する。『適正な学校規模』を求めて、統廃合計画を進めることには、納得できない。	1	生徒数が減り、学校が小規模になると、配置される教員数も減るため、生徒の進路希望に応じて選択科目を開設することなどが困難になります。また、学校行事や部活動の面でも、生徒の期待に応える多様な活発な活動が行いにくくなります。 県では、各学校が活力ある教育活動を展開できる適正な規模を確保できるよう、再編整備を進めてまいります。	D
17	6～8学級というのが、本当に適正規模なのか。クラス数の少ない高校の成功例はないのか。	2		D
18	生徒減だから統廃合するという安易な発想はやめ、生徒減の今だからできる活性化策を考えるべきではないか。適正規模だけでなく、小規模校でも誇りうる教育実践は可能だと思う。埼玉が全国に先駆け、そういった実践をすることを望む。	1		D
19	なぜ、児玉・飯能という地域の枠をはめた高校像をつくるのか。児玉には進学がふさわしくなく、飯能には総合的な技能は必要ないのか。今の時代だからこそ、どの県立高校に進学しても、子どもたちの人格を高め、知識・技能を身に付けられる高校教育が必要ではないか。	2	県では、地域の特色や社会状況の変化、生徒・保護者のニーズの多様化などに対応した特色ある県立高校の設置を進めております。 頂いた御意見は今後の新校づくりの参考とさせていただきます。	C

意見・提案内容		同様 意見数	県の考え方	記号
20	もっと広く意見を聞き、地域住民(県民)に理解されるようにすべきである。	3	<p>第1期実施方策(案)公表後に、地域ごとに学校関係者説明会を開催して、地元の方々からの意見を直接お聴きしました。また、飯能市とは「協議会」を通じて、本庄市においては、自治会等と意見交換をさせていただき、たくさんの御意見を頂きました。これらの意見は、今後の新校づくりの参考とさせていただきます。</p> <p>今後、地元関係者や学校関係者を含む「新校準備委員会」を設置し、地域の方々と共に新校づくりを進めてまいります。</p>	B
21	地域と十分に協議した結果、統合との結論になった場合には仕方がないが、十分な協議がなされずに結論を出すことについては納得がいくものではない。 今後、しっかりと地域と協議し決定していくことを望む。	2		B
22	少子化や過疎化が進む中、「地域振興の核」として高校の存続を望む地元自治体と、学習などへの協力を得たい高校側の方向性が一致した仕組みを作って地域の求める人材育成を進めてほしい。	1		B
23	それぞれの新校の基本方針には地域との関わりに関する内容が盛り込まれている。この方針に沿った取組(教育プログラム等)については、地元自治体や関係地域団体等との連携・協力なしに進めることは困難であると思う。新校の目指すところを自治体や地域住民と共有し進めるべきと考える。	1		B
24	教育予算、少子化等を踏まえ、県立高校の再編整備を進めなければならない現状については理解することができる。	4		B
25	生徒が減っていき、税収も減っていく中で、学校数を維持するという自体民間企業ではありえない考えであり、再編整備で学校数を減らすことは当然である。また、全部の生徒が自転車で通える距離に学校を維持するなんてことはできるはずがない。	1		B
26	教育は数値的な成果を出すことが難しいので、予算削減の対象となりやすいかもしれないが、未来を創る子供たちへの投資であり、一概に学校を減らすことが良いとは思わない。今回のように学校数を調整しながらも予算をかけて魅力ある高校を増やし、子供たちがこの高校に行きたい、この高校で良かったと思うような高校を増やすことが大切である。	1		B
27	児玉地域と飯能地域に再編整備をして良かったと思えるような魅力ある高校を作ってほしい。そして、私立高校に押されている県立高校が復活することを期待している。	1	B	

意見・提案内容		同様 意見数	県の考え方	記号
28	どちらの学校にしても、成功させるためには、大きな意識改革が必要である。 まず、中学校の先生たちに、高校を正しく知っていただく必要がある。また、高校の先生たちにも、意識改革が必要である。	1	<p>頂いた御意見を参考にさせていただきながら、社会のニーズに応える特色ある県立高校づくりを進めるとともに、適正な学校規模を維持し、生徒にとってより良い学習環境を整備することを目的として、今後も魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。</p>	C
29	都内の国立の高校に学び、研究者レベルの教員の配置や授業プログラムを高いレベルに引き上げるなどを目指してほしい。	1		C
30	今、絶対に足りなくなっているコミュニケーション能力を育成する教育を期待する。 好奇心、向上心を持って活躍する人材を育ててほしい。	1		C
31	「魅力ある高校」とは一体何か。人数ではなく、生徒、教職員、保護者、地域が一体となり、学校に思いを寄せ、それぞれが生き生きと活動できる場になることが大切ではないか。	1		C
32	県立高校に期待することは、生徒一人ひとりが個性や能力を伸ばし、これからの社会を生きていくうえで役立つ基礎的・基本的な知識や技能を身に付けること、生徒同士、教師も含め、日常的に意見交換が自由に行える環境が確保される中で、自分の考えを発信する力や人とのコミュニケーション力などを育み、自主性を培うことなどである。	1		C
33	多文化共生による魅力ある学校づくりが必要ではないか。	1		C
34	「志願倍率」が「魅力ある高校」の指標の一つになるのでは、と思う。二次募集をしなくてはならない高校が「魅力ある高校」と言えるのか。新聞掲載された25校の県立高校の中でエレベーター施設、車イス対応のトイレ、体育の着替え場所等のある高校かどうかを、統廃合決定の際の資料に加えてほしい。	1		C
35	偏差値が低い学校を少なくしていくのではなく、基礎学力が不足していても学べるような高等学校づくりを期待している。	1		C
36	高校が予備校化していないか。もっと行うべき教育があるのではないか。また、教員の生徒への接し方、PTAの運営の仕方など高校の体質が旧態依然である。	1		C
37	校舎を建て替えてほしい。 一部分ずつ建て替えるのではなく、全校舎・体育館等の施設を潰して更地にし、新時代の教育に適切な校舎配置・施設・設備を備えてゼロから設計してほしい。	1		<p>県財政は極めて厳しい状況ではありますが、新校が魅力ある高校となるよう、施設・設備の整備について必要な予算の確保に努めてまいります。</p>
38	生徒一人当たりの学校教育費は、県単位で全国39位である。	1	C	

意見・提案内容		同様 意見数	県の考え方	記号
39	<p>高校就学・卒業の機会の準備・提供は、県立高校の担当するべきことと考える。定時制高校の存続、適正配置を期待している。</p>	1	<p>定時制高校は、様々な事情を抱えた生徒の再チャレンジの場として、重要な役割を担っております。そのため、入学者数や在籍者数の状況、生徒の通学状況などを慎重に考慮しながら、適正な配置に努めてまいります。</p>	C
40	<p>羽生第一と羽生実業を統合して単純に総合学科とした場合、進修館と同じようになってしまう。隣り合わせの二つの市で、同様の総合高校では、結局人口の少ない地域で、また生徒の奪いあいとなり、住み分けができない。羽生第一高校は学力とともに、自分で学び続けられる力や人間性の育成に特化し、将来的には地域で人をまとめていくリーダーを育てていける学校にすることを提案する。</p>	1	<p>県立高校の全日制課程の学校数を令和11年4月を目途に現在の134校から121～124校程度とする予定です。</p> <p>対象校の検討については、平成30年4月に公表した「魅力ある県立高校づくり実施方策策定に向けて（再編整備の進め方）」でお示しした「再編整備を検討する観点」等に基づき、学校の現状や地域バランスを考慮しながら行ってまいります。</p> <p>引き続き、社会のニーズに応える特色ある県立高校づくりを進めるとともに、適正な学校規模を維持し、生徒にとってより良い学習環境を整備することを目的として、再編整備を進めてまいります。</p>	D
41	<p>「5年後に羽実と羽一が合併するという話」を聞いたという噂が市内では飛び交っている。皆が不安に思っている。羽生第一がなくなるのは困る、羽生第一と羽生実業の合併では困ると思っている市民が多くいることも、分かってほしい。</p>	1		D
42	<p>越生町では、地域の活性化を図るため越生駅東口開設事業を行い、念願の東口を開設した。これにより越生駅の東側に位置する県立越生高校への通学は徒歩10分程となり、通学に大変便利な環境が整った。</p> <p>また、県立越生高校は、地域に根ざした高校として、越生町の文化祭、町の商店のシャッターペイントなど、たくさんの貢献活動がある。</p> <p>既に越生町の南北に隣接する県立毛呂山高校と県立玉川工業高校がなくなり、地元企業の人材確保や若者の地元定住が難しくなるなど、埼玉西部地域の活力に大きな支障が生じてきている。</p> <p>このような状況に鑑み、県土のバランスある発展と若者の郷土愛を醸成するため、埼玉西部地域から更なる高校教育の場がなくならないよう県立越生高校の存続について切にお願いしたい。</p>	2		D



意見・提案内容	同様 意見数	県の考え方	記号
<b>2 「地域産業を支える人材を育成する高校の設置」について(6件)</b>			
1 「地域産業を支える人材を育成する高校」については、もっとこれまでにない特色を打ち出した方が良いのではないかと。	1	頂いた御意見は今後の新校づくりの参考とさせていただきます。	C
2 児玉高校と本庄高校の統廃合はなぜできないのか。児玉白楊高校と児玉高校は近いだけで、全く異なる学校である。ならば、普通科である本庄高校との統廃合なのではないか。ノウハウも分かっているからスムーズにいくはずである。	1	新校は、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けた地域産業を支える人材の育成を目指し、農業科、工業科及び「実学」を重視する普通科の併置校としております。 地域との交流を深め、地域の教育力をこれまで以上に積極的に活用し、地域への理解や愛着を深め、地域に貢献する人材を育成してまいります。	D
3 児玉高校を廃校に導くと、「こだま」地域の衰退化に拍車がかかる。	1	図書の在り方などについては、新校開校に向けた準備の中で検討してまいります。また、教職員は法令に基づき適正に配置し、再編整備対象校の生徒の教育に支障がないよう努めてまいります。	D
4 児玉高校の図書館には、発行部数の少ない希少本、創刊号から購読を続けている希少本、そして、35,000冊を超える蔵書がある。それをどこに置くのか。また、もし、統廃合になるのなら司書の複数配置（臨時職員）が必要である。	1	実学を重視する普通科とは、生徒のニーズや、社会の変化に応じた学びを保障するため、職業に関連する専門的な実習、様々な職業に出会う体験、基盤となる基礎学力定着の取組を重視した普通科です。 農業・工業という分野での実習等を体験していく中で、自己の適性を考えることができ、主体的な進路意識を育ててまいります。	C
5 「実学を重視した普通科」が理解できない。農業や工業の基礎的な科目だけを履修しても意味がないのではと感じる。「実学を重視した普通科」が本当に必要なのか。	1	北部地域唯一の体育コースの学びを継承するため、スポーツに関する多彩な授業を展開する体育の類型を設けることとして、記載を追加しております。	D
6 現在の体育コースの継承はないのか。	1		A

意見・提案内容		同様 意見数	県の考え方	記号
<b>3 「進学を重視した地域と協働する高校の設置」について(12件)</b>				
1	「進学を重視した地域と協働する高校の設置」について、私立との進学競争に勝てるのか疑問である。	1	地域の多様な人々との対話や議論、海外の高校生との交流等を通して、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力、リーダーシップやチャレンジ精神等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現に努めてまいります。	C
2	埼玉県内でホッケーが盛んなまちは飯能以外には無い。そして、飯能南高校は、スポーツコースがあり、全国大会出場の結果を残し日本代表選手を輩出しており、統合すべき学校ではない。	3	両校のホッケー部はともに、実績もあり、他校にはない部活動で、両校の特色となっています。こうした伝統や実績のある部活動の更なる活性化を図ってまいります。	D
3	飯能市には飯能高校と飯能南高校の2校があるが、両校とも十分魅力がある高校だと認識している。飯能高校はおよそ2年後には、創立100周年を迎えるほどの伝統があり、近年では学力向上に力を入れていると聞いている。また、飯能南高校は近年スポーツに力を入れてホッケーや陸上などの競技が盛んだと聞いている。 そのような特色のある学校を統合してしまうのは、大変残念に思う。統合せずに両校が存続する方法を模索してほしい。	1	両校の伝統を継承しつつ、進学を重視した地域と協働する高校として、飯能市をはじめ、近隣地域の課題解決や活性化に貢献し、一層の特色と活力のある高校となるよう、準備を進めてまいります。	D
4	「進学を重視した地域と協働する高校の設置」で掲げられている取組は、進学に対して一人一人の生徒のケアを行っている飯能南高校ですすでに取り組んでいる。わざわざ新校にする必要はない。	1		D
5	飯能の地域は活性化をしていこう！と地域一丸となって飯能の魅力化を進めている。全国メディアにも取り上げられ、とても住みやすく、自慢のできる地元へと変わってきている。そんな階段を登り始めている中で、こういった統合をするようでは地域活性化へと力を入れている地元住民にとっては悲しく、今後の若い世代の方々は離れていく一方ではないかと考える。	2		D
6	飯能南高校の普通科は定員割れしていない。生徒にきめ細かい指導体制を作り、様々な生徒が成長できる取組を行っている。「進学に重点を置いた」というコンセプトは隣の市の「大学進学重視型の普通科単位制高校」と何が違うのか。	1		D

	意見・提案内容	同様 意見数	県の考え方	記号
7	<p>飯能高校と飯能南高校は市の山間部から一番近く、また秩父地方から通学するのも選択肢に入る通いやすい高校である。学力的に中くらいの生徒たちが進学する高校であり、新校を進学校とすることにより、その生徒たちの受け皿が少なくなってしまう。</p>	1	<p>新校開校後の県立高校の募集学級数についても、これまで通り、地域の中学校卒業者数の今後の推移、高校進学率、進路希望状況、進路実績等を踏まえ、調整してまいります。</p>	C
8	<p>飯能南高校は市外から47%来ている。なくなると、市内への流れがなくなり過疎化につながる。</p>	1	<p>新校では、地域と協働しながら、地域社会の課題解決に取り組むとともに、ICTを活用するなど、市外の生徒にも進学先として魅力ある高校となるよう、準備を進めてまいります。</p>	C
9	<p>県教委が「地域と協働する高校」の設置を目指すのであれば、現段階では、この提案を撤回し、飯能市・市教委と真摯な協議を行うことが必要だと思う。</p>	1	<p>飯能市とは「協議会」を通じて、意見交換をさせていただきました。 飯能新校については、地域と協働する高校として、地域から一層期待される高校となるよう、今後も飯能市と連携を深めてまいります。</p>	A